

2016年版

農業技術大系 畜産編

全8巻 9分冊 ¥115,717 (税込み揃価格)

一般社団法人 農山漁村文化協会 東京都港区赤坂 7-6-1 TEL. 03-3585-1141

全8巻 9分冊の内容構成

第1巻 畜産基本編・馬

第2巻 乳牛① (「基礎編」「基本技術編」)

第2巻 乳牛② (「実際家の技術と経営編」)

第3巻 肉牛

第4巻 豚

第5巻 採卵鶏・ブロイラー

第6巻 中小家畜

第7巻 飼料作物

第8巻 環境対策

*分冊販売はいたしません。

*年1回追録(加除)を発行します(有償)。

2016年版「追録35号」企画の重点

飼料作物の最新品種から栽培技術、維持管理まで

2000年代以降、輸入飼料の価格が上がり続け、さらに近年の円安傾向もあり、生産現場では飼料自給への関心が高まっている。そこで長年、飼料作物の育成から普及まで携わってこられた元雪印種苗(株)の橋爪健氏に、飼料作物の最新情報を紹介いただいた。

トウモロコシ(図2)は北海道で子実やイアコーンの生産、都府県で二期作や混播が提案されている。ソルガム・スーダングラス(図3)はリグニンが少なく消化性が良い品種が開発された。

北海道では、チモシー(図4)で不良植生の侵入による生産量の低下が問題になっており、裸地が生じないように早晩性が異なる品種を組み合わせたり、不良植生を抑制するオーチャードグラス(図5)の導入が試みられている。放牧地では、天北地域でペレニアルライグラスのほか、根釧地域でメドウフェスク、シバ型草地でケンタッキーブル

ーグラスが見直されつつある。

都府県では、イタリアンライグラスで硝酸態窒素が低下する品種が開発された。また、トールフェスクは越夏性に優れるが、嗜好性に問題がある。そのため、イタリアンライグラスとフェスク類を



図1 アカクローバ(品種:マキミドリ)

(以降、写真提供はすべて雪印種苗)



図2 トウモロコシ (左: ネオデント・アシル90, 右: スノードントおとは)



図3 スーダングラス (品種: ヘイスーダン)



図4 チモシー (品種: アルテミス)



図5 オーチャードグラス (品種: バッカス)



図6 ライムギ (品種: 春香)

交配させたフェストロリウムで改善をはかる。ムギ類では、エンバクでイタリアンライグラスとの混播、ライムギ (図6) で不耕起栽培のほか、オ

ムギで芒のない品種が注目されている。

暖地では、ギニアグラスで品質を一定に保ち、刈取り適期の長い品種が育成された。干ばつに強



図7 バヒアグラス

い一年生牧草のローズグラスはロールベール生産に、越冬牧草のバヒアグラス（図7）は放牧地に、多収のパリセードグラスでサイレージに、倒伏に強いセタリアは乾草に利用されている。

マメ科牧草では、アカクローバ（図1）で老朽化草地の簡易植生改良で追播技術が開発され、シロクローバ（図8）でオーチャードグラス、チモシーそれぞれとの混播に適した系統がわかってきた。アルファルファは道東でも越冬できる品種が



図8 シロクローバ（品種：リベンデル）

登場し、ガレガは低温に強く、病害も少なく、永続性が期待できる。

さらに今回、トウモロコシ、スーダングラス・ソルガム、チモシー・オーチャードグラス、イタリアンライグラス・ムギ類、アルファルファの栽培技術、牧草サイレージの調製技術について、また、牧草地の植生悪化と簡易更新技術、放牧による省力化とコスト低減、堆厩肥の有効利用と効率的な施肥方法についても整理いただいた。

畜産でのさらなる経営改善のために、ぜひ本書をお役立ていただきたい。